

クリーンアップ推進員だより

CLEAN・UP

第47号

平成30年元旦 発行

【発行責任者】公益財団法人ちとせ環境と緑の財団 理事長 五島 洋子 TEL 0123-26-1213



新年明けましておめでとうございます。

クリーンアップ推進員の皆様におかれましては、日頃から各町内会や自治会での資源物の分別と、再資源化に向けた取組みをいただき感謝申し上げます。

また、当財団の研修会やリサイクルフェスティバルでも、ご協力をいただきありがとうございます。

平成24年10月から開始した奨励金方式での集団資源回収が、無事に丸5年を迎えることができましたのも、推進員の皆様のお力添えがあったのことに心から感謝しております。

近頃、若い人たちの間でスマートフォンを利用した「スマート断捨離」が人気だそうです。売ってお金にすることが、一番の目的かもしれませんが、家にある物を減らす、誰かに使ってもらう、それは、まさにリデュース、リユースです。

断捨離とは、「いつか使うかもしれない、いつか着るかもしれない」といって増えてしまった物を処分することですが、本当の意味は、ただ片づけることではなく自分にとって必要なもの、価値があるものを見つけることにあるそうです。そこにはきっと、日本人のもったいない精神が受け継がれていると私は信じております。

平成30年も推進員の皆様にとって希望に満ちた一年になりますよう心からご祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。

平成30年元旦

公益財団法人 ちとせ環境と緑の財団
理事長 五島 洋子

謹賀新年



クリーンアップ推進員の皆様、財団関係者の皆様、新年明けましておめでとうございます。

私は、昨年5月にクリーンアップ推進員会の会長となり、7ヶ月が経ちますが、何分初めての事でしたので、推進員の皆様には多大なるご協力をいただき、無事に進められたことを感謝しております。

また、集団資源回収の回収量が減っている中、町内会や推進員の皆様におかれましても様々な活動をされ、ご尽力されているかと思えます。

季節柄だんだん寒くなってまいりましたが、極寒の中資源回収の活動をされている皆様方には、心より敬意を表したいと存じます。

今後も、推進員の皆様、財団関係者の皆様におかれましては、情報提供の協力並びに、町内会の資源回収のご指導も宜しくお願い致します。

今年は「戌年」です。戌年生まれの方は勤勉で努力家とありますし、戌は人との付き合いも古く親しみ深い動物とされています。

干支にちなみ、皆様と共に親しみを深め、付き合いの輪を広げていけたらと思っております。

最後に、皆様の益々のご活躍とご健康、そして幸せな一年となることをご祈念申し上げます。

平成30年元旦

クリーンアップ推進員会
会長 供野 靖史

第2回クリーンアップ推進員研修会

平成29年9月25日（月）に、クリーンアップ推進員14名、財団役職員6名、市職員1名の合計21名で、再資源化に係る施設見学が行われ、『エコロパ西いぶり（室蘭市）』と『千歳市環境センター』の2か所を訪問しました。

エコロパ西いぶり



エコロパ西いぶりは、2市3町（室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）による広域連合で運営されており、廃棄物処理施設、リサイクル施設、余熱利用施設及びその周辺の公園一帯からなる複合施設です。

施設に到着後、事業内容と各施設についてビデオ視聴と担当職員による説明を受け、その後、各施設を見学しました。

廃棄物処理施設では、投入されたごみを熱分解ドラムで回転させながら、ごみ全体に熱を効率的に回し、熱分解ガスとカーボンに分解して燃焼溶融炉へ送り、燃焼溶融炉でより高温で燃焼させ、灰分を溶融して、アスファルトやコンクリート製品の原料へとリサイクルされます。

また、熱分解を経る事で、金属類は質の高い状態で有価金属として回収されます。

さらに、余熱を利用した発電で施設内の電力を賄い、余剰電力は売電も行っているとの説明があり、エネルギーロスの少なく効率の良い施設となっています。



【熱分解ドラム】

リサイクル施設では、再生家具が展示販売されており、既に売約済みのももありました。これらは、大型ごみとして出される際に、リサイクルを希望する方の元へ行き、使用できるものであるかを確認してから引き受け、補修した後に展示販売していました。

また、ガラスクラフトやせっけん作りなど各種体験講座を開催したり、ペットボトルがどの様に生まれ変わるのかを、手に取って見られる様に展示した情報コーナーを設けたりと、市民が楽しんで環境学習が行える施設でした。





千歳市環境センター

余熱利用施設では、廃棄物処理施設より発生する蒸気を利用して、温水プールの水温維持や館内の暖房が賄われています。

見学時には、プールでアクアエクササイズが開催されており、また、運動以外にも、多目的室での囲碁・将棋、温室での植物の鑑賞などと広く楽しむ事ができます。

ごみ処理の過程で発生するエネルギーが有効に活用され、市民の健康増進や憩いの場としての施設となっています。



千歳市環境センターでは、焼却処理場、破碎処理場、リサイクルセンターを見学しました。

初めに、焼却施設の管理室で燃えるごみを攪拌しているところなど、処理の仕方を見ながら説明を受けました。365日24時間体制で管理され、焼却処理に伴って発生する排熱は、焼却処理場内の管理棟の暖房や隣接するスラッジセンター（汚泥乾燥施設）の汚泥乾燥に有効利用されています。



破碎処理場では、施設の処理機器や管理室のモニターを見ながら、実際の処理工程を確認する事ができます。

職員の方からの説明で、破碎処理場に搬入されるものの中に、ライターやガス缶などが混入していると、破碎処理の機械の中でガスに引火し、火災が起こる場合があります。そうすると、整備や修理のために機械を止めなければならなくなり、施設運営への負担が大きくなるため、今後も分別の周知を徹底していく旨の説明がありました。



リサイクルセンターでは、収集された4種資源物の機械による選別と、手選別による作業状況などの説明を受けました。

また、ペットボトルや空き缶は、圧縮成型され、別のリサイクル工程へ出荷していますが、崩れない様に成型するには、それぞれが絡み合う様に圧縮しなければならず、そのためには、缶やペットボトルは潰さないで出して欲しいとの説明がありました。

研修を振り返って

9月25日の研修では、室蘭市と千歳市で、それぞれの施設の紹介や市民向けの啓発への取組みについて説明していただきました。

各施設で共通して抱えている問題は、不適切な分別によって、施設の運用が困難になる事例がある事でした。そのため、正しい分別への更なる啓発に取組み、市民の方々がより住みやすい環境となるべく力を入れている事が感じられました。

集団資源回収においても、同様に、資源を正しく分別する事は重要な課題であるため、なお一層の啓発に取り組んでいきたいと感じました。



集団資源回収を訪ねて～本町自治会～

今回は、本町自治会をご紹介します。本町自治会では、資源庫回収と拠点回収の2つの



方法を併用し、拠点回収に出せない方や出し忘れた方は資源庫に出す事もできます。

拠点回収とは、町内会や自治会等が回収する業者と回収拠点や時間などを取り決めたルールで回収する方法です。

本町自治会では、市が回収する家庭ごみのごみステーションの一部を回収拠点としています。家庭ごみと区別できる様に、資源物はごみステーションのかごの周りに置き、さらに、家庭ごみの収集日と重ならない日を拠点回収日にしています。

日常的に利用されるごみステーションは、各家庭から距離的に利便性が良く、拠点回収場所としてもわかり易いという事です。

財団からのお知らせ

●第3四半期分(10~12月)の集団資源回収 奨励金交付申請受付の締切り期日について

第3四半期分の奨励金交付申請の受け付けは、**平成30年1月20日まで**です。

申請は、奨励金交付申請書に、回収のあった月の回収伝票を添えて、財団へ提出となります。

各町内会の集団資源回収の奨励金担当の方へご案内をお願いいたします。

【問い合わせ先】

事業課資源振興係 ☎ 0123-26-1213

オフィスの
プリント環境を
考える

RISO 世界最速カラープリンター
オフィスGDシリーズ

Community & Solution

株式会社 カミノ

本社 千歳市新富3丁目3-24
TEL (0123) 23-4255
FAX (0123) 24-1381

科技大売店・恵庭支店・北広島支店



この推進員だよりの発行には、株式会社カミノ様のご協力をいただいております。